

やさしさとあたたかい心のある医療・福祉を目指します

ふつかいち

特集

診療の最前線 ～血管外科 下肢静脈瘤の治療～



旅路の途中で(沖縄の夏空と海と虹と)

Contents

- ◆ Page1~2 消化器内科の紹介
- ◆ Page3 診療の最前線
～血管外科 下肢静脈瘤の治療～
- ◆ Page4~5 部門紹介
医療安全管理室 / 看護部
- ◆ Page6 地域連携登録医のご紹介
● 良永医院
● 立花内科クリニック
● 津田内科医院
- ◆ Page7 地域医療支援病院

地域医療支援病院

災害拠点病院



福岡県済生会二日市病院
Saiseikai Futsukaichi Hospital



消化器内科

の紹介



副院長・内科主任部長 福嶋 博文

診療スタッフ

私たち消化器内科は、現在久留米大学消化器内科よりの出向5名、福岡大学筑紫病院消化器内科よりの出向3名及び久留米大学放射線科出身医師1名の合計9名にて昼夜を問わず消化器疾患の診断、治療に当たっています。

当院では消化器系の学会認定の指導医、専門医が多く在籍しているため日本消化器病学会の認定施設です。(表1)

また大学より専門分野(血管造影、ラジオ波焼灼療法、胆管ステント療法など)の専門医も非常勤医師として勤務し、治療に当たっています。

表1 各学会別指導医・専門医数

学会名	資格	人数
日本消化器病学会	指導医	1名
	専門医	6名
日本消化器内視鏡学会	指導医	1名
	専門医	5名
日本肝臓学会	専門医	1名

診療内容・実績

消化器内科の診療は大きく3つの疾患グループに分かれます。

1つ目は胃や大腸などの消化管疾患です。2つ目は肝臓疾患、3つ目は胆のう、胆管、すい臓疾患です。

1 消化管疾患

最近、全国的にも検診が推進され消化管精査が増加し、当院でもこの5年間に於いて増加傾向にあります。平成21年度と比較すると平成25年度は上部内視鏡検査は3235件から3447件に(1.06倍増、1日約12名)下部内視鏡検査は1301件から1808件に(1.38倍増、1日約8名)増加しています。(図1)

その結果、昨年度内視鏡生検で癌と診断された件数は胃癌81件、大腸癌93件でした。

癌やその疑いのある症例に対しては内視鏡治療可能と判断された症例に対し、当院では内視鏡的粘膜剥離術(EMR)や内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)による加療を行っています。

治療件数も経年的に増加し平成25年度は



消化器内科 スタッフ 左から 中野、高橋、吉村、宮岡、福嶋、森田、酒井、有川、中馬

EMR：220件、ESD：35件でした。（図2）

また当院では夜間休日にも内視鏡当番医を設けているため吐血や下血などの対応も可能であり、消化管出血と診断された場合は緊急内視鏡を施行し平成25年度は123件の内視鏡止血術を行っています。

図1

内視鏡検査件数

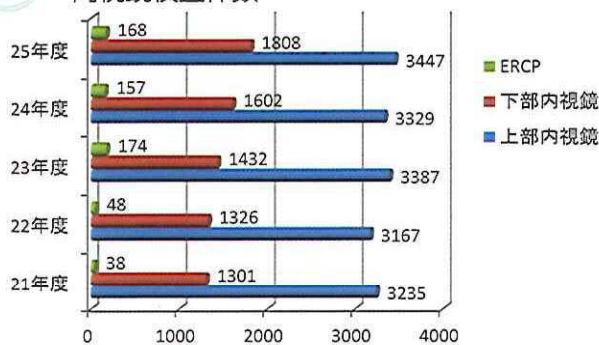
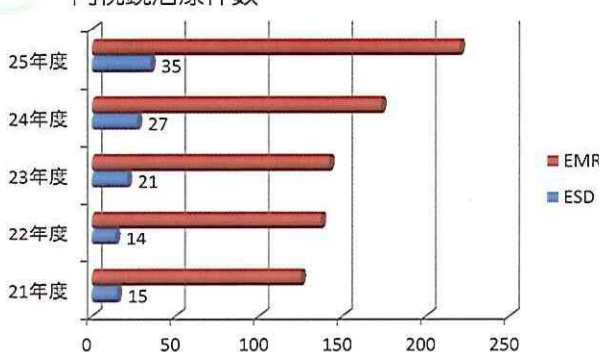


図2

内視鏡治療件数



2 肝臓疾患

当院は福岡県肝疾患専門医療機関です。

慢性C型肝炎にはインターフェロン療法や慢性B型肝炎には抗ウイルス剤投与を行っています。

ここ数年慢性C型肝炎に対するインターフェロンを用いた治療の進歩は目覚ましく第一世代の核酸アナログ製剤を用いた3剤併用療法では10例中8例ウイルス排除でき完治されました。

現在は副作用のほとんどない第二世代の核酸アナログ製剤を用いた3剤併用療法を開始しすでに11例に導入しています。

また慢性B型肝炎の21例の方に内服の抗ウイルス剤を投与し肝機能改善を認めています。

インターフェロンや抗ウイルス剤は高額ですが肝炎助成金制度の対象となります。

慢性肝炎が進行すると肝硬変になりますが、厄介な症状として難治性腹水があります。

お腹に溜まった腹水を取り出し、機械で濃縮してタンパク質のみ血管に戻す腹水濃縮再静注を行っています。また食道静脈瘤に対する予防的治療や出血時の止血術を行います。

肝硬変になると肝臓が出来やすくなります。

肝臓に対しては経皮的ラジオ波焼灼療法や肝動脈塞栓術を主に患者さんの病状に適した治療を選択して行っています。

3 胆のう、胆管、すい臓疾患

食生活の変化によるためか胆道系疾患が増加しています。

胆のうや総胆管の石、腫瘍及びすい臓の腫瘍などの精査のため行う内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）はこの5年間で38件から168件（4.42倍）と著明に増加しました。その内、胆管炎や総胆管結石の治療となる胆道ステント留置術や碎石術は平成25年度77件でした。（図1参照）



今後について

筑紫地区の消化器疾患を担当する急性期医療機関として、他の医療機関と連携しながら今後も昼夜を問わず救急対応が必要な患者さんを受け入れ治療を行います。

また消化器癌の早期発見、早期治療を目標に外来検査の充実を図ります。

本年度に日本消化器内視鏡学会認定施設の申請や日本肝臓学会認定施設の再申請も行う予定です。

一般市民の方や患者さんには健康講座や教室開催にて消化器疾患の説明を行ってまいります。

平成10年から始めた肝臓病教室は昨年秋に100回を迎えましたが、今年も5月から年9回開催予定です。どなたでも無料で参加できますからどうぞお越しください。

血管外科



血管外科部長 千原 新吾

下肢静脈瘤に対する治療には、弾性ストッキング着用などによる圧迫療法や直接静脈瘤に硬化剤を注入する硬化療法などありますが、手術療法が根治のための基本となります。その手術療法に、近年、特に国内ではこの2-3年で大きな変革が起きました。

まず、麻酔法の変化です。以前は、硬膜外麻酔・脊椎麻酔や全身麻酔で行われることが殆どでしたが、美容形成外科の脂肪吸引療法を行う際に使用されていたTLA麻酔が応用されるようになりました。これは薄めた通常の局所麻酔薬(キシロカイン)にエピネフリンを追加することによって、広範囲に長時間作用する伝達麻酔を行うことができます。この麻酔によって静脈瘤手術



症例検討場面

の直後から歩くことが可能になりました。

また、それぞれの“コブ(静脈瘤)”の切除法は、以前は最低でも1cmほどの皮膚切開を加えて静脈瘤切除を行い縫合閉鎖することが通例でした。しかし、現在は“stab avulsion法”の普及により3mmほどの創から静脈瘤を摘出し、縫合が不要となっています。

そして、下肢静脈瘤手術の胆(きも)である、逆流している伏在静脈(大伏在静脈や小伏在静脈)の処理に関しては、長いことストリッピング術という静脈にワイヤーを通して引き抜く手術が標準術式でした。

そこに2011年1月からレーザー治療が保険適応となりました。皮膚切開を加えずに経皮的に伏在静脈を穿刺し、レーザーによって静脈を焼灼・収縮・閉塞させる治療です。皮膚切開・縫合が不要となることから美容面での利点と手術時間の短縮が得られています。

2013年8月以降72例92肢に対してレーザー治療を行ってきましたが、大きな合併症もなく、そして患者さんがたに満足していただいています。



下肢静脈瘤手術場面

医療安全管理室

医療安全管理室室長 帆足 いずみ



医療安全への取り組み

患者に安全な医療サービス提供することは、医療における最優先事項です。当院の医療安全は院内の医療安全の推進の強化と具体的な医療安全管理体制の構築を担い、事故防止に向けて組織的に取り組むことで安全文化の定着と向上を担っています。

これから当院の医療安全に関する取り組みを紹介いたします。

* 医療安全推進「患者間違いを防ぐ3ヶ条」

医療安全推進

患者間違いを防ぐ為の **3ヶ条**

- ① 名前はフルネームで確認
- ② 患者さん自身に名乗って頂く
- ③ リストバンドで確認



- ① 名前はフルネームで確認させていただきます。時に、同姓の方もいらっしゃいますので、生年月日も確認することもあります。
- ② 患者さんが名乗れる方は、自分の名前を名乗っていただきます。その時にご協力ください。
- ③ 入院患者さんで、必要時にはリストバンドでも確認させていただきます。

全職員で患者間違い防止のため、行っていますのでご協力お願いします。

* 医療安全3本柱

- ① 指差し呼称
- ② インフォームドコンセント（説明と同意）
- ③ フィードバック（振り返り）

再三の確認行動、説明と同意、振り返りを心掛け、患者さんへ安全・安心を提供します。

* 入院生活の安全いろは

- い**：今いちど、自分の名前を伝えましょう。
- ろ**：廊下は意外にすべります。靴を履いていつでも安心。
- は**：歯を外したらいれ物へ 大事な体の一部です。
- に**：二度三度たずねることも遠慮なく、治療の主役はあなたです。
- ほ**：ホッとすると相手に話そう不安な気持ち。
- へ**：変だな？と思ったときは確認を。くすりは正しく飲みましょう。
- と**：とっても大切、次の診察いつですか。

(大学病院資料照)

医療現場の安全には、患者さんの参加が不可欠です。
これからもご協力お願いします。

部門紹介

看護部

看護部紹介 その2

看護部の活動

【1. 教育】

基本方針：倫理的視点を持つ感性豊かな専門職業人の育成

- 看護係長が教育委員として、企画・運営しています。
- 教育は段階別に分かれており、院内研修は、年間25のプログラムを行っています。
- eラーニングを導入し年間42のプログラムをスマホ・PC等でいつでも、どこでも学習できる環境を提供しています。

【2. 新人教育】

- 厚労省の新人ガイドラインに準じた研修を行っています。

研修の
一部を紹介



新人研修の様子：看護基礎技術



認定看護師によるスキンケア研修



臨床工学士による輸液ポンプ研修

宿泊研修は多職種参加です。
新人同士の絆を深めます！



地域連携登録医のご紹介

よしなが 良永医院



院長 良永智彦 先生

【診療科目】

内科一般・外科一般



所在地：〒818-0023
筑紫野市若江187

電話：092-926-2903
FAX：092-926-3745



診療日時	月	火	水	木	金	土	日 祝日
午前 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	×
午後 15:00~17:00	●	●	●	●	●	×	×

たちばな 立花内科クリニック



院長 立花征幸 先生

【診療科目】

内科・消化器科

【専門医資格】

日本内科学会認定医

【施設のPRなど】

生活習慣病をはじめ内科一般の診療を行っております。また、胃内視鏡（経鼻）検査、胃X線検査、腹部エコー検査を実施しています。今後もかかりつけ医として地域医療に貢献していきたいと思っております。



所在地：〒818-0134
太宰府市大佐野6-2-1
エース第一ビル1F

電話：092-928-3833
FAX：092-928-8228

診療日時	月	火	水	木	金	土	日 祝日
午前 9:00~12:30 (▲は9:00~13:00)	●	●	●	●	●	▲	×
午後 14:00~18:00	●	●	×	●	●	×	×

つだ 津田内科医院



院長 津田穎彦 先生

【診療科目】

内科・アレルギー科・心療内科

【専門・得意とする領域】

内科一般

【施設のPRなど】

地域のかかりつけ医として24時間患者様の相談等に対応できる様努めております。また、在宅支援診療所として通院が困難な方、自宅で療養している方に往診・訪問診療をし、診察・指導を積極的に行います。



所在地：〒818-0104
太宰府市通古賀6-2-6

電話：092-924-3311
FAX：092-924-4868

診療日時	月	火	水	木	金	土	日 祝日
午前 9:00~13:00	●	●	●	●	●	●	×
午後 14:00~17:00	●	●	●	●	●	×	×

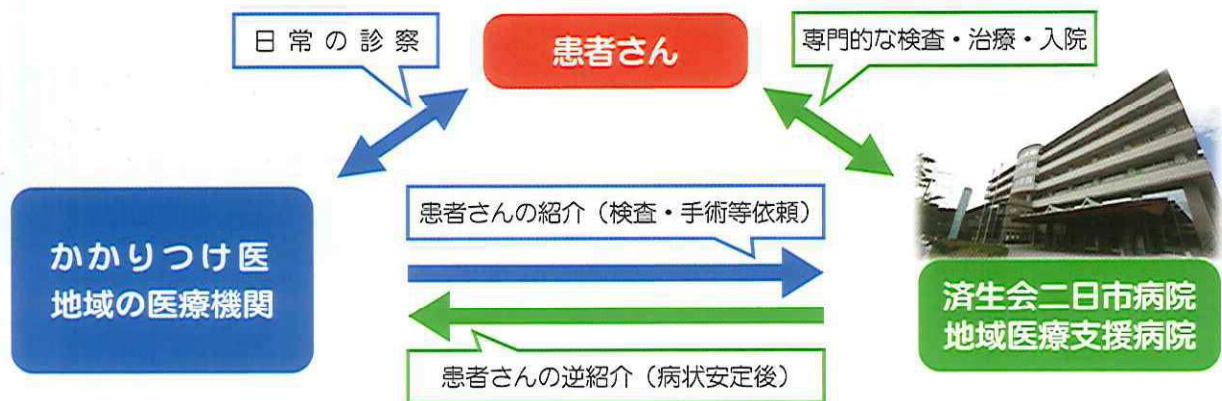
当院は地域医療支援病院としての役割を担っています

❁ 地域医療支援病院とは

紹介患者さんに対する医療提供、医療機器の共同利用を通じて、「かかりつけ医」（診療所）を支援する地域医療体制の中核を担う病院です。

❁ 「かかりつけ医」（診療所）で診察を

地域全体で質の高い医療を提供するためには、医療機関の役割分担が欠かせません。その鍵を握るのが「かかりつけ医」の存在といえます。「かかりつけ医」とは、患者さんの健康を把握し、体調不良や病気にかかった時に気軽に受診できる身近なお医者さんのことです。その際、専門的な検査・治療や入院が必要と判断されると、当院への紹介が行われることとなります。こうして、当院と「かかりつけ医」はそれぞれの役割分担をしながら、患者さんの健康を地域全体でお守りできる医療連携体制を築いています。



病院の理念と基本方針

理念

やさしさとあたたかい心のある医療・福祉を目指します

基本方針

1. 急性期医療から福祉サービスまでの安全・安心な医療を提供します。
2. 医療水準の向上を図り、患者さまに信頼されるチーム医療を提供します。
3. 職員の研修、教育、研究の充実を図り、人材育成に努めます。
4. 地域に貢献し、地域完結型医療の構築を目指します。

編集後記

今年は、全国的に酷暑で、風水害の多い夏でした。暑さの中、懸命に頑張っている社会人の皆様、まだまだビールが美味しい季節。慰労を兼ねてビアパーティを企画し、盛り上がるのはいかがでしょうか？本誌についてのご意見・ご感想、また原稿や写真掲載などを募集しています。是非、よろしくお願いたします。

院外広報誌 ふつかいち 第60号

平成26年8月31日

発行者 間野正衛 編集 広報委員会

発行 福岡県済生会二日市病院

〒818-8516 筑紫野市湯町三丁目13番1号

TEL 092-923-1551 FAX 092-924-5210

<http://www.saiseikai-futsukaichi.org>